

なぜ

投球障害肩が 起きるのか?

～病態から考える治療展開と、予防のためのコンディショニング～

診る側の思い込みが治療を難しくしている!
“人”を診て、本質を見抜く!

投 球障害肩の病態は非常に複雑で、計測数値だけでは適切な対応を選択することは出来ません。どのような情報を、どのようにして集め、どのような解釈を持ってそれを検証するかが重要になります。

整形外科医と理学療法士の視点

から、投球障害肩の捉え方、選手の診かた、治療への展開、コンディショニングなどについて講義。臨床経験や様々なデータをもとに、“人を診る”ために知っておくべきこと、意識すべきことを分かりやすく解説します。

**病態から発生機序を考え、
病態発生のストーリーを
変える!**

本セミナーでのディスカッションを
無料公開!

商品番号
ME195-S

ME195-S(全4巻セット)
28,000円+税 各セット14,000円+税(送料別)
※Aセット・Bセット(各2巻・分売不可)での販売。
※本DVDは、2015年12月に行われた
セミナーを収録したものです。

ジャパンライムメディカル.com

www.japanlaim-medical.com/ にて、セラピストや
トレーナーが抱える疑問点を、3人のプロフェッショナルが答えます!

筒井 廣明
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
スポーツ整形外科 教授

矢内 利政
早稲田大学
スポーツ科学学術院 教授

山口 光國
セラ・ラボ代表／理学療法士／
健康心理学修士

リアルな現場の
今を反映した
ディスカッションです。
是非ご覧ください。

Aセット
ME195-A

ME195-A1
+
ME195-A2

投球障害肩の診断と治療

講演者 筒井 廣明

肩 の名医として知られる筒井氏が、
投球障害肩の捉え方として、病
態、診断、治療の基本を講義します。

投球障害肩においては、病態を治療し
ても同じ機械的刺激が加わればまた
損傷してしまいます。重要なのは、ど
この機能を変えれば機械的刺激が軽減
し、効率の良い投球ができるようにな
るかを考えることです。ここでは、病態
から機能的な問題を考え、病態発生の
ストーリーを構築し、機能診断から治療を
考えるという治療展開を解説します。



ME195-A1 投球障害肩の診断と治療1 51分

- イントロダクション ■ 投球障害肩の病態
■ 病態から機能的な問題を考える
■ 病態から病態発生のストーリーを考える



ME195-A2 投球障害肩の診断と治療2 42分

- 選手を診る時の思い込み
○ ボールリリース時に肩関節は屈曲位? 伸展位?
○ 加速期からボールリリース時に肩関節は140°位
の外旋可動域が必要? ○ 投球側のほうが筋力がある?
○ 野球選手なら、片脚起立くらいは出来る?
■ 機能障害を見逃さないために
■ ケーススタディー(診断・治療の流れ) ■まとめ

Bセット
ME195-B

ME195-B1
+
ME195-B2

投球障害肩に対する コンディショニング

講演者 山口 光國

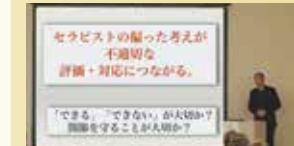
豊 富な臨床経験を持つ山口氏が、
「投球障害肩に対して理学療法
がすること」をキーワードに、コン
ディショニングについて解説します。

全ての影響は必ず身体の特性として表
れ、最終的には関節にかかる力学的負
担が障害を招きます。セラピストは、
この特性を見逃さないことが重要で
す。そのためには、どのように診て、どの
ように考えるべきか。セラピストとして
の役割を踏まえた上で、とことん講義
します。



ME195-B1 投球障害肩に対する コンディショニング1 37分

- セラピストとしての役割
■ セラピストに求められる判断



ME195-B2 投球障害肩に対する コンディショニング2 47分

- 可動域制限の捉え方
■ 筋力の捉え方 ■ 上肢の挙上運動
■ 肩甲骨の保持と運動
■ 筋力低下が問題か? ■ 関節は何故壊れる?
■ セラピストがどう考えるか? ■まとめ